

小学校 特別活動 部会

部会長 市場小学校 校長 井上 憲治
実践者 川崎東小学校 教諭 柳井 文陽

1 研究主題

学級活動（１）の指導と評価の一体化

～育ちの見とりと、指導に生かす「そのつど評価」～

2 主題設定の理由

児童が議題内容を話し合い、判断し、よりよい内容に決定するまでの一連の実践を行うようになるためには、話し合いの経験と判断の基準となる価値観をどのように育てるのが重要になる。それは、学級活動や日常の学級経営において、常に価値ある行為や活動の意義を取りあげて、そのつど言葉による評価（賞賛）を繰り返し行うことで浸透していく。そしてこのような評価は価値基準や意義の深さをおさえた指導を繰り返し行うことが重要になる。また、その繰り返しの評価により、児童が議題内容を考え判断を行う際の価値基準を明確にさせる。「この内容ではどうか」と議題を話し合い、決定する時、児童は、その内容がもつ価値や意義を発達段階（学年）に応じて吟味し、判断していくことになる。

また上述の内容は、以上児童の価値観と判断基準を育てていく上で、指導に生かす「そのつど評価」を行うことにより、学級活動（１）の指導と評価の一体化が図られると考えた。

3 主題の意味

（１）指導に生かす評価の一体化（見とりとそのつど評価）とは

学級会の最中、教師は助言を行うことが指導の中心になり、評価活動の主たる場面は、終末に行われる教師の話になる。ここで、児童の発言や態度を具体的に取り上げ、価値づけ、評価内容を児童に返すことが肝心である。また、発達段階や学級会の経験値に応じて、発言の仕方やリアクションの取り方、枕の付け方（つなぎことば）等を、機会を捉えて教師がそのつど取りあげ、価値づけた指導をすることも重要になる。評価の一体化とはこのような児童の発言、反応への見とりと価値づけを繰り返すことであり、その見とりと「そのつど評価」が、学級会での考え方や表現の仕方を深化させ、思考・判断・実践への確かな育ちを促すことになる。

4 研究の目標

学級会において指導と評価を一体化させるには、話し合い活動のオーソドックスなスタイルを毎週の学級会に定着させる必要があると同時に定期的に必ず実践する必要がある。特に、児童が「こんな学級にしたい」という願いをもち、みんなで話し合い、実践に移す学級活動においては、正しい価値観に裏打ちされた学級経営と、学級内に支持的風土が醸成されていることが絶対条件である。そのような条件のもと、学級活動（１）における学級会での教師の指導と評価の一体化の在り方を究明する。

5 研究仮説

学級会での話合いの進め方を計画委員会に指導し、基本的な話合いのスタイルとして年間の学級活動の話合いで定期的実践し、話合いの各場面で、価値ある発言や行動を「そのつど評価」していけば、その話合いの経験の積み重ねが、学級内の諸問題に目を向けることができる児童が育つであろう。また学級会が、児童自らが諸問題を議題として取り上げるにより自発的な話合い活動へと発展するとともに児童が、自らの話合い経験を生かしたり、生活経験から考えたりして、自分自身の言葉で思いを伝える言語活動にも寄与するであろう。

6 研究の計画

(1) 【議題発見への関心・意欲を育てる】

児童は、まず自分たちの問題として、今、学級に何が足りないのか？何が必要なのか？ということをつかかなければならない。しかし、子どもたちの議題発見力は、学級活動経験値の差によって、大きく違いが生じる。そのため、学級活動の基本を発達段階に応じて指導し、理解させなければならない。それと同時に児童の内面に、そのことに目を向け、何とかしなければという積極的な関心や意欲を喚起させなければならない。

(2) 【関心・意欲の芽を育てる】

上述のような実践的な関心や意欲を喚起するためには、日頃から学級の諸問題を意識できるように意図的、積極的に児童へのアプローチを行い、児童の内面に関心・意欲の芽を育てなければならない。それと同時に、児童自らが議題を発見したと思えるような後支えや仕かけ、そして教室環境も必要になる。これらの指導を心がけ、クラスの問題、私たちの問題としての議題が取り上げられ高く評価することで、議題発見への芽が育っていく。

(3) 【解決の考え方】

学級会での話合いの先にあるものは、算数的な明確な答えではなく、友だちの思いや考え方を伝え合いながら生まれる学級みんなで作る一つの《考え》である。学級会では、マイナス方向の意見だけを出し続けても解決にもならない。友だちの考えを肯定的に捉え、プラス思考でよりよいものを作りあげようとする態度が大切である。そのことが結果的に折り合いをつけて話し合うことに繋がる。

(4) 【決定のよりどころ】

学級みんなで決定していく場面で、よりどころとなるのは、学級みんなで作った学級目標であり、それに裏打ちされ、計画委員会でじっくりと話し合われた提案理由が大切になる。中でも、朝の会や帰りの会の中で、常に学級目標を意識したため作りや振り返りを指導しておくことが大切である。

7 指導の実際【第16回学級会（指導案）】

（1）議題が決定するまでの経過（議題設定の理由を含む）

5年生になってから一学期の終わりまでに、児童は学級目標にあるような「だれにでも仲良くし、絆が深められるクラス」を目指して、みんなで協力して学級会や学級集会活動を行ってきた。その結果、進級当初と比べると、明らかに人間関係がよりよいものへと変わってきた。そして、二学期になった現在、児童は一学期以上に更に絆を深めたいという思いを強く持っている。そのため児童自らの手で企画立案させるようにした。

お楽しみ会の企画・立案は、一学期最後と二学期最初の二度行ってきている。4年生までの学級会の経験の少なさもあって、初めて自分たちの力で計画・実践する喜びを大いに感じている様子であった。また、二回目になると、「〇〇さんのことも考えたら、△△の方が楽しめると思うので、よりよいのではないか」といった発言が増え、「みんな」を大事にしようとする姿へと成長してきている。

本時の学級会「ハロウィンパーティーをしよう」では、これまで以上に更に学級の絆を深めるために、10月31日のハロウィンの行事に重ねて「ハロウィンパーティー」を行う計画である。また今回話し合う内容の一つには、一学期末に、他の学校へ転校してしまった友達へのプレゼントの内容も含まれている。これは、前述したような「みんな」を大事にしようとする考えが転校した友達のことにもまで及ぶようになったためであり、クラスメイトから、「転校した〇〇ちゃんのために何かしたいという思いはあったので、それも取り入れれば、〇〇ちゃんを元気づけることもできるし更にクラスのみんなの絆も深まってよいのではないか。」という意見が出され取り入れることに決まった。このように、「ハロウィンパーティー」の実現に向けて、児童の意欲は大変高まった。

（2）児童の実態

本学級の児童は、男子12名、女子10名、計22名の大変元気で明るい学級である。しかし4年生の時から「学級活動」にかかわる数々の話合いや実際の活動を自分たちの手で計画・実践してきていない。だからこそ5年生になってから、学級活動とはどのような時間であるか、学級会の進め方について教えていった。また、学校全体のために高学年として活躍し、友達同士でお互いのことを考え、お互いに謝恩の言葉を掛け合うことを繰り返し教えた。

帰りの会での、「光る言葉・行動見つけ」では、「〇〇さんが、学級や委員会の仕事をがんばっていました。」や「〇〇くんが、算数の時間に分かりやすく勉強を教えてくださいました。」「〇〇さんが、困っている人がいるとすかさず自分のことより相手のことを優先しているのがすばらしいと思いました。」という発表やそれに対して「ありがとうございます！」といった反応があるなど、お互いの頑張りを認め合ったり、友達への感謝の気持ちを伝えたりすることが多く見られるようになった。

また、病気がちでなかなか学校に来れていない友達が登校したときには、「先生、〇〇君が今日も頑張って学校に来ていますよ！」などの声が聞かれたり、授業中に学習の苦手な児童が発表したときには、自然と拍手が出たりなど、支持的風土の素地も一人一人の心に育ってきた。

学級開き後には、すぐに「みんながいつも笑顔で明るい気持ちになれるような5年2

組の教室にしたい」と、はりきって掲示物を作るとともに、学級目標も予定通りに教室側面に掲げることができた。特に本学級の学級目標の中にある『下学年のお手本となる・24人で協力する・正義感が強くてだれにでもやさしくできる・みんな仲良く絆が深められる』といった、よりよい学校をつくろうとする意識が芽生えてきた。このように『学級づくり』に対しても、意識が深まってきている。委員会活動へ本格的に参画し始めた現在、高学年としての自覚も高まりを見せ、下学年に対して優しく関わる姿も見えはじめている。

話し合い活動においては、5年2組の児童は、友達の話最後まで聞くことや、反対意見を述べるときにはやわらかい表現を使いながら友達が意見を受け入れやすいような話し方をするということについて身につけることができてきた。児童一人一人の思いがのびのびと語られ、そしてお互い「よさ」を認め合うことができる学級集団を目指し現在活動中である。

(3) 指導にあたって

① 事前

一学期末、二学期最初のお楽しみ会の計画・実践で、児童は学級活動の時間における学級会や学級集会活動の楽しさを存分に味わうことができた。そして、今後も更に活動を増やし、学級目標の「だれにでもやさしくでき、みんな仲良く絆が深められるクラス」に向かって進んでいこうとする意欲も、大変高まりを見せてきた。

二学期に入ってから、折に触れて教師が、過去の学級集会活動で「ハロウィンパーティー」を行ったことを話題に出しながら、意図的な『しかけ』を行ってきた。また、二学期最初のお楽しみ会で、当日までの準備が計画的にできていなかったり、打ち合わせからクラスの絆を更に深めていくためにも、「ハロウィンパーティー」を行いたいという提案が数名の児童からあった。

また、同時期に、一学期転校した友達のことで、「きっとさみしいだろうと思うから、プレゼントをあげて喜ばせたい」という提案もされていた。そこで、計画委員会で話し合った結果、本時の話し合いの柱「ハロウィンパーティーで行うゲーム・出し物を決めよう(3つ決める)」のところで、「3つのうちの1つに、転校してしまった〇〇ちゃんのためにできることをしてそれをビデオレターにすれば、〇〇ちゃんを元気づけることもできるし更にクラスみんなの絆も深まってよいのではないか。」という意見が出された。〇〇ちゃんの話は、クラスでも大きな関心事であったため、クラス全員の承認を得て、議題として決定された。

② 本時

本時の学級会では、「ハロウィンパーティー」で何をするかを考える中で、提案理由に基づき相手を意識して話し合い、内容を決定する話し合い活動を展開するようにしたい。そのために、児童が事前に自分の意見を持って話し合いに参加できるように、議題、提案理由、めあてを書き込んだ学級活動ノートに、自分の考えを簡単にメモしておくように助言しておく。

また、なかなか意見を持っているのに発言するのが苦手な児童に対しては事前に教師が声かけをしたり、議長や周囲の児童が発言を促したりすることにより、一人一回は発

表できるようにしていきたい。

③ 事後

本学級会終了後は「ハロウィンパーティー」への活動をより効果的に素早く活動するために、具体的な活動場面や時間を考えながら、そしてどのような「ハロウィンパーティー」にするのか具体的にイメージを持たせてから実践に取り組みさせることにする。また、本時で決定した内容は、各係での話し合い活動を行い決定していきたい。その後、それぞれの活動のプロジェクトチームを作り、より具体的な活動計画を立てさせるようにする。このような授業設計を行うことにより、児童が、よりよい人間関係を築いていこうとする自主的・実践的な態度を身に付けることができるようにするとともに、集団の一員という確かな実感と満足感を味わわせるようにつないでいきたい。

(4) 目標

- 高学年としての自覚と責任を持って、相手のことを思いやりながら意欲的に温かい人間関係を形成していこうとする。
(関心・意欲・態度)

- どんな「ハロウィンパーティー」にするかを考えた学級活動の中で、友達と自分の考えや思いを比べながら議題決定に向けて積極的に発言したり、先行経験を生かした自分たちの知恵を出し合って活動内容を決定し、めあてを意識して内容を考えることができる。
(思考・判断・実践)

- 議題を決定していくための話し合いの手順が分かるとともに、「ハロウィンパーティー」の学級活動が学級・学校生活の向上と児童会が目指してきた楽しい学校づくりにつながることを理解できる。
(知識・理解)

- 発表する友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるとともに、話し合いを通して、お互いに理解し合うことができる。
(伝え合う力にかかわること)

(5) 指導計画

① 事前の活動

児童の活動	教師の指導と援助
① 計画委員会を開き、議題について話し合う。	・「ハロウィンパーティー」の内容に「〇〇ちゃんへのプレゼント」を加えてはどうかと助言する。
② 帰りの会で議題を提案、承認を得る。	・提案理由をより具体的に詳しく提案し話合いの議題内容がよく伝わるように助言する。
③ 計画委員会を開き、学級会での話合いの柱を決定する。	・話合いの柱を決める。 ・ゲーム・出し物の内容を考える ・〇〇ちゃんに贈るものを考える ・役割分担の仕方 etc
④ 計画委員会を開き話合い活動計画を立てる。	・話合いの柱について再度検討し、45分の時間を意識した活動計画を立てるように助言する
⑤ 議長グループ・計画委員とでリハーサルを行う。	・話合いの流れを予想して、対処の仕方を十分に考えておくように助言する。

(6) 本時

① 本時のねらい

- 「ハロウィンパーティー」でのゲーム・出し物について考える中で、友達と自分の考えや思いを比べながら議題決定に向けて積極的に発言したり、めあてを意識して内容を考えることができるようにする。

(思考・判断・実践)

- 議題を決定していくための話合いの手順が分かるとともに、学級生活の向上と子ども達が目指してきた楽しい学級・学校づくりにつながることを理解できるようにする。

(知識・理解)

- 発表する友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるとともに、話合いを通して、お互いに理解し合うことができるようにする。

(伝え合う力かかわること)

② 指導上の留意事項

- 本時学級会の提案理由、めあてを意識した理由付けができるように、一人一人が自分の意見を持って話し合いに参加させる。
- 児童が自主的な活動内容を逸脱しそうな場合は、適宜、適切な指導を行う。

※ 上記のように、ねらいにかかわる視点を持ちながら活動を見守り、「先生の話」の中で今後の活動実践がより意欲的になるように、児童の頑張りやよさに着目した評価を行う。

事後においては各プロジェクトチームの成果を発表し合う中で、個人の光る言葉・行動をみつける相互評価活動を継続させる。

学級・学年全体で取り組んだすばらしさを認め合い、所属感や自己効力感等がより強く感じられるように、常にポジティブな評価活動を行いたい。

③ 児童の活動計画（授業当日に内容を記入した活動計画を配布）

決まったこと	活動の進行計画			時間	役割	話し合いの柱	めあて	提案理由	議題	10月27日(木) 第十六回 学級活動(学級会)の計画
	7分	35分	3分							
	10. 級長からの評価 9. 級長からの話 8. 先生の話 7. 光る言葉行動みつけ 6. 決定事項の確認 5. 学級活動イトに決まったことを書く	5. 話し合い 4. 話し合いの柱の説明 3. 議題と提案理由の確認 2. 役割の紹介 1. 始めの言葉	3. まてそのうちうちは、送り物。 ① 教室でできる楽しい遊びを決めよう。 ② は、さきから話す人の方を向く。 ③ うなずきながら話す人の方を向く。	佐藤あい 議長 中村煌 副議長 白杵信春 ノート書記 黒坂書記 松岡 書記 高島梨夢 提案者	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	ハロウィーンパーティをしよう！
	光る言葉行動みつけを長くする。 ※は時があまたら。	決まらなかったことは次回に全対出す。 ※は時間かあまたとき。	始めの言葉をなるべく短かくする。	気をつけること	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	話し合いの柱 話し合いの柱	ハロウィーンパーティをしよう！
			ストップノート	用意する物						

④ 評価

㊦ 個人の変容に関する評価

- 事前に提示された話合いの内容に、自分なりの意見をもって参加し、はっきりと自分の思いを主張することができたか。 **(関心・意欲・態度)**
- 自分の考えや思いと他の考え方を比べながら、議題決定に向け積極的に発言したり、自分の役割に責任をもって議事を進行することができたか。 **(思考・判断・実践)**

㊧ 集団の変容に関する評価

- 話合いの適切な場面で、先行経験を生かした議題決定に向けての知恵や発言がみられ、自分たちの力で協力しながら進め、集団決定することができたか。 **(知識・理解)**
- 発表する友達の考えと自分の考えを比べながら聞き、自分の考えを積極的に友達に伝えることができるとともに、話合いを通して、お互いに理解し合うことができたか。 **(伝え合う力にかかわること)**

(7) 事後の活動予定

児童の活動	教師の指導と援助
<ul style="list-style-type: none"> ・司会や準備・ゲーム・担当等についての役割を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で協力して進めることと、当日の時間配分に視点をあてるように助言する。
<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みや放課後、そして学級活動の時間に、それぞれの役割ごとに原案を作成し活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動原案を参考にして書くように助言する。特にそれぞれの活動の意義を盛り込むように留意させる。
<ul style="list-style-type: none"> ・ハローウィンパーティー当日、各プロジェクトチームごとに自分の役割を果たすと共に、パーティーを大いに楽しむ。また、転校した友達に向けての出し物はビデオに撮影し、後日贈る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の「よさ」が生かせるような役割りをするように助言する。
<ul style="list-style-type: none"> ・ハローウィンパーティーの振り返りを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成果を報告し、お互いの活動を認め合えるように相互評価を行う。

(8) 本時活動展開計画【計画委員会が本時学級会の事前活動を行う際に指導する内容】

第16回 学級会の計画 平成28年10月27日(木) 第5校時	
議 題	○ハロウィンパーティーをしよう。
提 案 者	○ ()
提案理由	○みんなで楽しむことで絆が深まるし、男女関係なく仲良く楽しみたいから。 クラスをもっと盛り上げたいから。
め あ て	○はっきり恥ずかしがらずに発表する。 ○うなずきながら話す人の方を向く。
話合いの柱	○教室でできる楽しい遊びを決めよう。 (3つまで) そのうち一つは転校した〇〇ちゃんへの贈り物
役 割	議 長 () 副議長 () ノート書記 () 黒板書記 () () () 提案者 ()
主な活動内容	教師の指導・援助等と本時の留意点
1 はじめの言葉	・議長グループに大きな声ではっきり短い時間で行えるように助言する。
2 議題の確認	
3 提案理由の発表	・大きな声で報告できるように助言し、練習を促す。
4 めあての確認	
5 話合い	
○ハロウィンパーティーで行う ゲーム・出し物を決めよう。 (一つは、転向した友達へむ けてのものにする)	・事前に個人案を学級会ノートにメモしておき、めあてを意識した理由付けや、質疑ができるように助言する。
6 決まったことの発表	・議長グループには、時間を意識して話合いを進めるように助言する。
7 今日の評価	・ノート書記に本時の話合いを簡潔にまとめて、わかりやすくみんなに伝えるように助言する。
8 光る言葉と光る行動	・友達や自分のよさを認め合う視点で行わせる。
9 活動をふりかえって	・活動をふりかえっては、時間がない場合、学級会終了後に書くようにさせる。
10 先生の話	

11 議長からの評価	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の活動実践がより意欲的になるように、児童の頑張りや「よさ」に着目した積極的な評価を行う。
12 終わりの言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・計画委員のがんばり、意見発表にがんばった児童や発表の仕方に気をつけた児童に対して賞賛を行い、以後の活動への意欲を喚起したい。

8 研究のまとめ

(1) 【実践と振り返り】

この学級会の後、ハロウィンパーティーに向けて準備の役割分担を行い、みんなで協力して準備や飾り付けを行うことができた。ハロウィンパーティーでは、ゲームを通してみんなで楽しい時間を共有することができた。また、転校した友達への歌の贈り物についても、計画通り行うことができ、転校した友達を喜ばせることができたことで、子ども達は、達成感を感じ友達との絆を深めることができていた。

(2) 【特に評価した内容】

学級会を繰り返し行っていく中で、多くの意見に対して、自分の考えをはっきりと主張できるようになってきた。また、友達の出した意見に対して、よりよい学級を築こうと、さらに価値が高いものを求めて話し合う姿勢と、多様な意見を受容する支持的風土の育ちも見られるようになった。今回の学級会の取組により、学級内の人間関係をよりよいものへと進化させることができた。特に、子ども達一人一人が、自己中心的な考え方から、クラス全員を思いやる考え方ができるように変化してきた点に大きな意義を感じた。

8 成果と今後の課題

本学級会では5年生なりに価値や意義を考えながらよりよい学級生活をつくろうと話し合う児童の育ちを数多く見とることができた。これは今までの学級会で、発言内容や考え方を見とり、そのつど評価し、児童に価値づけて返しながら育ててきた思考・判断実践の育ちそのものである。指導に生かす評価とは評定を行うことではない。今後も児童の育ちを見とり、後支えしながらさらに高みへと誘う評価活動を展開しながらよりよい学級づくりを目指していきたいと考えている。